

石川節子 石川啄木の妻。

いしかわせつこ

帝国大学始・1886 = 岩手県南岩手郡上田村新山小路で、郡役人でのち村長となる堀合忠操の長女に生まれる。母はとき。

続々、弟妹が誕生、3男6女の9人兄弟となるなか、

帝国憲法発布1889 = 3歳 :

日清戦争始・1894 = 8歳 :

日清戦争終・1895 = 9歳 :

Bushidou・・1899 = 13歳 : 私立盛岡女学校に進学、県立盛岡中学校の啄木と出会う。

教科書疑獄・1902 = 16歳 : 卒業。

日露戦争始・1904 = 18歳 : 岩手郡滝沢村の篠木小学校の代用教員となり、裁縫を教える。

日露戦争終・1905 = 19歳 : *啄木と結婚、盛岡市内に新居を構える。9か月でゆきづまり、夫婦と啄木の母の3人は洪民村に移り、啄木は洪民小学校の代用教員となる。

韓国反日暴動1907 = 21歳 : 3人は函館に移り、啄木は北海道を流浪。

アヲキ 創刊・1908 = 22歳 : 啄木は節子と母を宮崎郁雨に託し上京。娘京子を老母にあずけて、節子は小学校の代用教員となる。

伊藤博文暗殺1909 = 23歳 : *啄木が朝日新聞に校正係としてつとめたので節子らも上京。長い労苦で心身の衰弱した節子は、同年、娘を連れて家出。この事件は啄木の思想改革に強く影響した。

明治天皇没・1912 = 26歳 : *啄木死去。啄木は死の直前に「日記」を焼き捨てるよう遺言したが、若き日の啄木の文学的開眼を促した節子の芸術的才能は日記をも守った。節子は千葉県北条町八幡浜の片山宅に、6歳の長女京子を連れて身を寄せる。妹光子の知人サンダーの紹介で、館山在住の宣教医師コルバン夫妻の庇護を受けた。すでに節子も肺結核に感染していたが、2女房江を生んだ(1男2女を生む)。同年、2人の娘を連れて函館に帰り、

大正政変・・1913 = 27歳 : 1年足らずで市内豊川病院で、没した。